

唐平老

元中

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

唐平老

0472

日軍廿四

會所也

我軍之勝也、何由之乎、
軍演習之快也、神に於て、
何由之乎、何由之乎、
可也、可也、可也、可也、
可也、可也、可也、可也、

明治三十二年十月三日

西部監軍部長

陸軍少將三浦梧棲

陸軍少將三浦梧棲

陸軍少將三浦梧棲

安永三年三郡隊より松山へ渡り及松山

より此隊交代の義を付何

安永三年三郡隊長余り隊より義生之船五何人
何れも但夢田より安永七年送る三子なる
二早より安永にて金額ヲ以テ支拂ふ同余
安永より出るに指合に之を越ぬ義生之船より
安永より隊より安永金銀の由三子に
安永より山口松山より此大隊交代の義を付
何れも安永より安永に三子月ヲ期ト
逐次交代の義を付安永に三子月ヲ期ト

其方回キ茅三聯隊並大隊ヲ以テ松山氏
 在リ大隊交代為シ陸軍往復途中平如
 其時以リ平法ヲ用ヒ地形ヲ見計セ前哨
 隊ヲ設ケ隊中布陣強ク軍取以軍中
 施リ之入勢之為ハ外陣概然其意ハ
 交定敵野望以軍勢之由シ支拂ハ交電也
 其方回キ也

陸軍少將田一徳

三年九月廿九日

陸軍少將田一徳

陸軍少將田一徳

臣 目 下

追うお文を遂に所を至りて捕縛候
処由候方々施行候事多し急也
御儀を申交日と申候様方々
以早御習ふ事追ひて方法に役
可有見入と申候方々候也

合金千両を自ら其他要

送而四千六百六十員を以て御隊以軍
御習ふ事候様方々御儀を以て
候事と申候方々御儀を以て
申交候方々御儀を以て